

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
B グループ研究B
校 園 コー ド (代表者校 園 の市 費 コー ド)
702574
選 定 番 号
239

代表者	校 園 名 :	大阪市立横堤中学校
	校 園 長 名 :	田 中 城 明
	電 話 :	06-6911-1361
	事 務 職 員 名 :	品 川 竜 樹
申請者	校 園 名 :	大阪市立横堤中学校
	職 名 ・ 名 前 :	校 長 田 中 城 明
	電 話 :	06-6911-1361

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	ソーシャルディスタンスを確保した、新しい保健体育授業づくり ーなぎなた授業の研究ー			
3	研究目的	コロナ禍での保健体育授業において、特に苦慮する格技の指導方法の研究			
4	取り組んだ 研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSコシック 9.5ポイント）</p> <p>令和 4 年 1 0 月 1 2 日に全市研究発表会を実施。</p> <p>全市研究発表会においては、がんばる先生支援グループBの選定を受け、「保健体育授業における学びの質を高める」をテーマとした。現在に至るまでコロナ禍の影響を受け、保健体育授業において、武道の授業に多くの制限がかかっていたこともあり、ソーシャルディスタンスを意識した格技（なぎなた）を実施することで運動の楽しさや、礼儀作法などの伝統を実感させ、深い学びを共有させたいと考えた。</p> <p>今回の研究内容に当たっては、大阪教育大学 井上功一准教授に指導助言を仰ぎ、全日本なぎなた連盟の今浦千信先生に実技講習をしていただくことで、「学びの質を高める」という観点で教材研究に取り組むことができた。なお、当日は50名に参加者を限定し、公開授業の参観及び、実技講習を実施した。また、リアルタイムでTeamsによる配信を行った。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 4 年 10 月 12 日		参加者数	約 310 名
		場所	大阪市立墨江丘中学校 体育館			
		備考				
6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。				
		【見込まれる成果1】 体育の授業において、学習意欲を高める指導方法の研究が、大阪市教育振興基本計画の最重要目標の一つである「未来を切り拓くための学力・体力の向上」に期待できる。 《検証方法》 全国体力・運動能力調査で大阪市の数値 〔検証結果と考察〕 合計得点から見ると中2男子では全国（41.04）に対し40.80と－0.24ポイント。中2女子で全国（47.42）に対し47.00と－0.42ポイントという結果になった。昨年度は全国に対して男子が－0.47ポイント、女子が－0.50ポイントだったことを考えれば、少しずつではあるが向上してきている。これは約3年間に及ぶコロナ禍の中で学校現場が様々な工夫を凝らしながら体育の授業をはじめ様々な取り組みを行ってきたことが一因であると考ええる。				
		【見込まれる成果2】 学校現場での授業づくりとして、若手教員の参考となる資料を作成する。 《検証方法》 全市一斉研究発表会でなぎなたの指導案の配布を行い、授業づくりの参考にしてもらう。 〔検証結果と考察〕 ソーシャルディスタンスを確保しながらできる格技はないかと、試行錯誤しながら墨江丘中学校で3年間をかけて取り組んでこられたのがなぎなたの授業であった。その築きあげた資料をすべて提供していただいたことで、指導案をはじめ評価法に至るまでを全市保健体育科教員に発信することができた。大変参考になったと多数の声をいただいた。				
		【見込まれる成果3】 評価の研究・研修を通して、指導力の向上が期待できる。 《検証方法》 大阪教育大 准教授 井上功一先生の講演後のアンケート調査 〔検証結果と考察〕 大阪の中学校では運動能力に幅のある生徒が集まりやすい。その中で全員が同じスタートラインに立ってスポーツを行う事で参加意欲の向上ができたこと、また、運動嫌いを減らすきっかけになったことが成果と言える。課題としては、授業の中で生徒同士が伝えたいことを言葉にできるかが課題である。ようは一つのことをテーマにして話ができるかである。との成果、課題を明確にいただき、今後の参考になった。参加者からも学ぶべき点が多かったとの声が多数あった。				

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 研究発表や研修等の満足度・充実度を評価する。また資料の妥当性（客観性）・信頼性を検証する。</p> <p>《検証方法》 「学校授業（生徒対象）アンケート・参加者教員アンケート・専門委員アンケート」を実施 肯定的回答の割合を70%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 授業者や授業内容に対して90%以上の肯定的回答を得ることができた。なかでも実技講習は50名程の参加者が、なぎなたの特性を踏まえた武道の理念や基本動作を熱心に取り組む姿が見られた。しかし、Teamsでの配信は、音声や画像が途切れるなど、課題が多かった。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。 武道は礼儀作法を通じて、相手への敬意や尊重といった他人を思いやる凛とした心と強い精神力を養うことができる。さらに、初めてなぎなたに触れる生徒が大半で全員が0（ゼロ）からスタートできるのも生徒たちの意欲につながっていた。 毎時間の基礎的・基本的な技能（構え・体さばき・面打ち・連続技など）練習を重ねるとともにペアでの練習により、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動をすることで上達を実感させるように取り組んできた。また、その過程で自己の考えたことや気づいたことを他者に伝えることができるようになったことは成果である。基本的な技の習得からさらに打ち返し、しかけ応じと発展し、それぞれの選手権を行うことでさらに生徒の意欲は向上していった。このように全くの0（ゼロ）から計画的に進めていく方法をも学ぶことができた。そして、何よりも武道に制限がかかったから実施しないということではなく、何ができるかを考え、新しいことにもチャレンジしていくことの大切さを学べたことは何よりの成果であると考え。今後はさらに成功体験を増やせるような工夫と他者との話し合いの場面（時間）を増やし、自分たちで課題を発見し、主体的で深い学びの実現につなげていけるかが、課題である。また、タブレットなどのICTを取り入れた保健体育授業の取り組み方にも研究を進めていきたいと考える。</p> <p>《代表校園長の総評》 今回の研究発表会が「なぎなた」に関わらず、大阪市の保健体育科の先生方が新たなことに挑戦するための一助になれば幸いである。 今回の研究授業・実技講習・研究協議をTeamsで配信したが、画像や音声途切れるなどの問題がやはりあった。特に授業者には、ピンマイクなどを使ってもらい、少しでも声が届くようにするなど、反省すべき点があった。 また、今回いただいたアンケートからも貴重な意見が多くあった。現場で試行錯誤をしながら保健体育の授業に向き合っている先生方のために大阪市中学校教育研究会、保健体育部として今後も研究・研鑽に努めていきたいと思う。</p>
---	-------	--